

■【「見える!!地域連携」プロジェクト】学生ニーズの可視化

学生による公募型地域連携活動への助成事業

「学まちチャレンジ!プロジェクト」

本事業は、本学学生から応募される主体的な地域連携活動に対し助成を行うものです。

学生の地域社会における多様な学びを支援し、自主性・企画力・課題解決能力・コミュニケーション能力を培い、その活動をもって、地域貢献や大学活性化、学生文化の向上につながるように実施するものです。

募集対象 地域社会への貢献を目的とした取り組み（対象地域は京都市内に限る）

応募資格 本学の正規学生（学部生、大学院生）で原則3名以上のグループ

2023 年度採択団体一覧

NO.	チーム名	プロジェクト名	概 要
1	えしかるず橋	エコバッグDE エシカル古本市	「エシカル消費」をテーマに山科地域における地域の魅力を再認識してもらうとともに住みやすいまちの担い手となってもらえるような啓発活動としてエコバックづくりワークショップやエシカル古本市などを実施するプロジェクト
2	OSJ 橋	楽しくしっかり学ぼう!! ～地域に根づく書道～	地域の方に向けて、書道を楽しく学んでもらうための書道教室や書道イベントを実施するプロジェクト
3	京都橘大学図書館 情報学研究会 (略称:キットケン)	山科図書館を盛り上げよう プロジェクト☆	山科地域の子育て世代および子どもたちを対象に、お話の世界や本の魅力を様々な形式の表現で伝えるイベントや図書館利用者の満足度調査を実施するプロジェクト
4	救急救命サークル TURF	プロジェクト救 ～あなたの一瞬の勇気が誰かの一生 に～	山科地域の住民に心肺蘇生法の指導を行う救命講習を実施し、地域住民の一次救命処置 (BLS) への関心を高め、普及させるプロジェクト
5	まちづくり研究会	京焼・清水焼を活用した地域活性化	京焼・清水焼を活用した地域活性化を目的とし、地域住民に京焼・清水焼を購入、使用してもらい、京焼・清水焼が地域住民にとってなじみ深いものとなる方法を模索するプロジェクト

外部機関との連携型プロジェクト

NO.	連携機関	概 要
1	山科区役所	山科区役所と連携し、防災意識を高めるためのアプローチについて検討し、地域の方の協力を得て、ワークショップを実施するプロジェクト
2	コミュニティ・バンク京信山科支店	コミュニティ・バンク京信山科支店と連携し、イベントを通じて健康や生活の安全の大切さを地域の方々に発信するプロジェクト
3	醍醐いきいき市民活動センター	醍醐周辺地域の子ども・子育て世代の交流を目的としたイベントに参加し、地域のつながりをどのように活性化させるかを考えるプロジェクト

■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

エコバッグDEエシカル古本市

報告：えしかるず橘

プロジェクト内容

本プロジェクトでは、近年話題となっている「エシカル消費」をテーマに山科・醍醐地域の住民に地域の魅力を再認識してもらおうとともに、住みやすいまちの担い手となってもらえるような啓発活動を目指しました。

プロジェクトの目的は、①山科・醍醐地域の方に環境に配慮した生活の提案と、行動へのきっかけづくりを行うこと、②山科・醍醐地域の方に、住んでいる地域の魅力を再認識してもらおうきっかけづくりを創出することの2つです。目的達成のために今年度は「洛和会メディカルフェスティバル」や「たちばなサイエンスデー」「たちばなこども食堂」にて3つの企画を行いました。

①エコバッグづくりワークショップ

参加者にスタンプやペンを使ってオリジナルのエコバッグを作成してもらいました。

②山科推し缶バッジづくり

えしかるず橘が作成した8種類の山科魅力パネル（「もてなすくん」や「京焼・清水焼」など山科の魅力や特徴を絵にしたものと簡単な説明を書いたもの）の中から推しを選択して缶バッジを作成し、エコバッグに取り付けてもらいました。

③エシカル古本市

今年度の新しい取り組みとして、作成したエコバックをすぐに使ってもらうために古本市を併設しました。本プロジェクトは親子の参加者が多いため、絵本や児童書を中心に保護者向けの小説などジャンルは問わず様々な本を用意しました。大学内に古本回収ボックスを設置したり、廃校になった小学校から寄付してもらったりして様々な本を集め、足りない分野の本は古本屋で購入しました。

イベント当日は、エコバッグを作った方には1冊、読まなくなった本を持参してくださった方には持参された冊数分の本を選んで交換という形で古本の循環を行いました。

プロジェクトの成果と学び

エコバッグワークショップでは楽しんでもらうだけでなく、「学校に持っていく」など実際に使ってみたいという声をたくさん聞くことができました。イベントに参加した方からは、「以前参加したときに作ったエコバッグを使っています」と声を掛けていただき、少しではあるもののエシカル消費の輪の広がりを感じることができました。缶バッジワークショップでは山科地域について老若男女問わずたくさんの方に興味を持ってもらうことができました。

古本市では、まず本が集まるか不安でしたが、大学内の古本回収ボックスや、廃校となった小学校からの寄付など想像をはるかに超える冊数を集めることができました。イベント当日には、参加者が持参して交換した本を別の参加者が気に入って自分の本と交換して嬉しそうに帰っていく姿を見て、小さな規模ではあるものの、山科の中で古本が循環していく姿を見ることができました。

今年度は初めての取り組みや、初めて参加するイベントもありましたが、しっかりと計画を立てたうえで、まずは行動してみるものの大切さを学びました。不安な点も多くありましたが行動を起こすことで協力してくださる方は多くいると改めて感じました。

今後の展開

今後のイベントでは、より環境について考えてもらえるようなイベントにしていきたいと考えています。また、来年度からは代表の交代やメンバーの卒業があるため、新たなメンバーの確保など、えしかるず橘という団体を継続できるよう努力していきます。



■学まちチャレンジ!プロジェクト

書道を楽しくしっかり学ぼう!

報告: OSJ橘

プロジェクトの内容

OSJ橘は、文学部日本語日本文学科書道コース有志の学生による団体です。多くの人に筆を持つ機会を作って書道の良さ・楽しさを広めたいと思い、学まちチャレンジ!プロジェクトに参加しました。子どもの字の上達、書道の基礎、書道を通しての集中力の向上を目標とし、筆を持つ機会が少ない子どもたちにとって書道を学ぶきっかけになるよう、また、大学で学んだ知識や技術を活かし、地域に貢献できるよう活動しています。

プロジェクトの成果と学び

今年度は、たちらボ山科での書道体験会の継続、イオンタウン山科樹辻とラクト山科でのイベント実施、新型コロナ明け初の書道パフォーマンスに挑戦しました。

たちらボ山科での書道体験会は毎月2回行っています。参加者からは「楽しかった」「子どもの成長が分かるからとても良い」というお声を頂きました。子どもたちが「〇〇の字を書きたい」と積極的に取り組む姿勢も見られました。また、季節に因んだ言葉など一人ひとりの要望に合わせたお手本を作成することで、より丁寧な指導を心掛けました。

また、イオンタウン山科樹辻とラクト山科でイベントを開催しました。色紙づくり、リクエスト色紙、紙コップ工作、思い出フレーム、ブンブンごま制作、紙皿カステネットのほか、季節に合わせてうちわ作り、紅葉のしおり作りなども行いました。工作を取り入れることで、書道未経験者でも気軽に参加できる環境を作り、幼児からご年配の方まで幅広い世代に参加して頂きました。保護者の方からは「大学生がこのようなイベントを開催しているのはとても良いと思う」「また参加したい」というお声を頂きました。とても充実したイベントだったので、今後も継続していきたいです。

1月には六地蔵にあるMOMOテラスで開催された醍醐味eetsで書道パフォーマンスにも挑戦しました。たくさんの方々に囲まれながらオープニングとエンディングの計2回書道パフォーマンスを行い、その間の2時間で書道体験会を行いました。体験会にはパフォーマンスを見た後に来て頂いた方も多く、「カッコよかった」「感動しました」などのお言葉を頂きました。幅広い世代の方々にご参加頂き、筆を初めて握るお子さんや久しぶりに書道をしたいと言って来てくれた方もいました。このイベントを通して、色々な方に魅力や楽しさを知って頂けたと思います。

今後の展開

今後はたちらボ山科(書道体験会)で硬筆も行いたいと考えています。毛筆と硬筆を選べる形にすることで活動の範囲が広がると思います。また、OSJメンバーが増えたため、できるイベントが増えたことはこれからの活動の拡大につながると思います。現在の課題は、書道体験会の参加人数が月によって差があることです。今後は、SNSでの情報発信をさらに強化し、イベントをする際に書道体験会の宣伝も積極的に行いたいです。

今後の目標は、連携している企業も増えてきているので昨年より活動域を広げ、「継続」することと更に新たなことに「挑戦」していくことです。またOSJメンバー全員が子どもたちに分かりやすく教えることができるように、メンバー同士で教えあいながら技術を高めていきたいと思っています。



■学まちチャレンジ!プロジェクト

山科図書館を盛り上げようプロジェクト☆

報告：京都橘大学図書館情報学研究会(略称：キットケン)

プロジェクト内容

図書館情報学研究会は、昨年度に続いて2年目の参加です。今年度のプロジェクトでは、山科図書館への新規来館者の増加、子どもたちに図書館の魅力を伝えることを目標に、秋と冬に「おはなし会」を行いました。絵本や紙芝居の読み聞かせ、手作りのペープサート、エプロンシアターを上演し、昨年度を上回る盛り上がりを見せました。

また、図書館運用に貢献する意識調査を行い、結果を図書館にフィードバックしました。

プロジェクトの成果と学び

おはなし会の参加者は、秋は約15人、冬は約30人と、予定を大きく上回りました。昨年度の選んだ本と実際に参加した子どもの年齢層が一致しなかったという反省点を踏まえ、今年度は事前に複数の作品や大型絵本を準備するなど工夫し、昨年度よりバージョンアップした読み聞かせを行うことができました。

また、立体的なものを使うことで子どもたちが飽きずに集中して見てくれるのではないかと考えて、ペープサートやエプロンシアターの上演にも挑戦しました。どの年齢層でも楽しめるように、ペープサートでは「変身トンネル」、エプロンシアターでは「てぶくろ」を選びました。子どもたちは演目に興味津々で、時には声を上げて笑ってくれたり、楽しかったと感想を伝えてくれたりと大好評でした。また、保護者にも好評で喜んでいただくことができました。

今年度のプロジェクトでは、参加者の年齢層を考慮して利用者が何を求めているのかを客観的に分析する大切さを学びました。その結果、より多くの人に本や図書館の魅力を伝えることができたと思います。

おはなし会の他にも、図書館運営に貢献することを目的として利用者アンケートを実施しました。図書館の利用目的や来館頻度、普段どのぐらいの本を読むのか、好きな本のジャンルなど全8個の質問を用意し、63件の協力を得ました。「山科図書館はどのような存在か」という質問には「親しみやすい馴染みの場所」「知る喜び、読む喜びを得られる場」という回答が多く見られました。また、「読書や図書館にまつわる思い出」という質問には、子育て中に子どもを連れてきた人や思春期の子どもとの会話のきっかけになった人、コロナ禍での一時休館が寂しく辛かった人、思い出の本や新しい本に出会った人など、様々なエピソードが見られました。特に子育てに関するエピソードからは、子どもたちの成長に図書館が関わっていることが感じられます。

これらの回答からも図書館の役割が「本を借りる場」だけでなく、「人々の安らぎの場所・子どもたちの成長の場」としても機能していることがわかります。

今後の展開

課題は、読み聞かせが始まる前の時間を利用して子どもたちと距離を縮めておくことができなかったことです。例えば、読み聞かせ前に手遊びをするなど、これから何が始まるのかというドキドキを感じてもらい、興味と親しみを持ってもらえるよう、読み聞かせの導入にも工夫をしたいと思います。

また、子どもたちにより夢中になってもらえるように、私たちの技術面を向上させ、参加者の反応を見ながらイベントを進めることを目標にしたいと思います。



■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

プロジェクト救～あなたの一瞬の勇気が誰かの一生に～

報告：救急救命サークルTURF

プロジェクト内容

このプロジェクトは、山科地域の住民に救命講習を実施し、地域住民の一次救命処置への関心を高め、普及することを目的としたものです。一般市民の一次救命処置実施率が非常に低いことを知り、救えるはずであった命が簡単に失われる現状を少しでも改善したいという思いから2023年度の学まちチャレンジ!プロジェクトに参加しました。

今年度の活動では、10歳未満の子どもから80歳以上の高齢者まで、約80人の方々に受講していただくことができました。

プロジェクトの成果と学び

プロジェクトでは、イオンタウン山科柳辻で行われた「たちばなこども食堂」や同じ学まちチャレンジ!プロジェクトのコミュニティ・バンク京信山科支店チームと合同で行った「ふれあい健康イベント」など、様々なイベントに参加しました。イベントでは、胸骨圧迫の方法や自動体外式除細動器（以下、AED）の使用方法など、実技中心の講習を実施しました。

子どもがたくさん参加するイベントでは、保護者の方から子どもの異物除去法について質問していただくことがありました。救命講習は成人を対象としたものが多く、小児・乳児を対象としたものは少ないため、小さな子どものいる世代に需要が高いことが分かりました。このことから、講習参加者の世代に合わせて異物除去法や、季節に合ったテーマなどを加えると、参加者の興味を引くことができ、受講者増加につながるのではないかと考えました。

また、女性の傷病者にAEDのパッドを貼る際の問題点や、AEDの安全性についての質問もありました。こういった疑問は、誰もが一度は考えるものだと思います。そして、この疑問は一般市民が心肺停止傷病者に対して一次救命処置を実施する際の障壁の一つとなっているのではないかと感じました。今年度のプロジェクトは実技中心の講習だったため、このような疑問や不安を払拭することを今後の課題として考えています。一般市民の方に一次救命処置を普及させるためには、実技だけでなく正しい知識を伝えることが必要だと強く感じました。

今後の展開

今年度の活動を通して、実技中心の救命講習だけでは救助者自身の不安や疑問を解消することが難しく、一般市民の一次救命処置実施率の向上につながりにくいと感じました。

今後は、イベントに参加するだけでなくTURF主催の救急救命講習会の開催にも挑戦してみたいと感じました。実技だけでなく知識を伝えることのできる講習会のプログラム作りに挑戦したいと思います。



■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

京焼・清水焼絵付けワークショップ

報告：まちづくり研究会

プロジェクト内容

まちづくり研究会は2001年から京焼・清水焼の組合や職人・作家などと連携し、伝統産業の振興と地域のアイデンティティの創出に取り組んできました。2006年からは清水焼の茶碗に灯りをともしたイベント「陶灯路」を実施し、地域の魅力を発信してきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響によりコミュニケーションが制限され、伝統産業への理解や地域との連携に課題が生じています。

このプロジェクトでは、京都市山科区の伝統産業である京焼・清水焼を活用し、京焼・清水焼に関わる方々とのコミュニケーションを通じて、地域の活性化を目指しました。

プロジェクトの成果と学び

2023年度は、7月の「たちばなサイエンスデー」、10月の「洛和メディカルフェスティバル（洛和会音羽リハビリテーション病院）」、と12月の「たちばなこども食堂」で京焼・清水焼の箸置き絵付け体験を実施し、多くの方に参加していただきました。アンケートでは京焼・清水焼の認知度も高く、イベント満足度においても高い評価を得られました。一方で、京焼・清水焼の絵付け体験であることや、まちづくり研究会の活動に対する認知度はあまり高くなく「どこが主催しているイベントなのかわからない」という意見もいただきました。今後は絵付け体験の楽しさだけでなく、京焼・清水焼に興味を持ってもらえるような工夫と、まちづくり研究会の活動についても認知度も高めていく必要があると考えています。

また、本プロジェクトに参加することで、絵付け体験のイベント運営に携わったメンバー自身の「京焼・清水焼」への関心と、地域と関わり交流することへの意識が高まりました。

今後の展開

まず、京焼・清水焼を用いた活動であることを認知してもらうために、京焼・清水焼の歴史や特徴、伝統的な絵付け文様の紹介などを記したパンフレットを作成します。また、ポスターやチラシを作る際には、京焼・清水焼を用いたイベントであることが分かるように記載します。

次に京焼・清水焼の職人や作家とのコミュニケーションの場が少ないことが課題なので、絵付け体験の具体的な企画を立てるために、京焼・清水焼の職人の方々と意見交換を行います。また、京焼・清水焼の歴史や現状、課題についてのレクチャーや、これまでの山科地域活性化への取り組みについてもヒアリングを行います。これからは学生が気軽に清水焼団地に足を運び、コミュニケーションがとれる関係を築けるような仕組みを考えたいと思います。



山科区の地域防災について考える

報告：山科区役所×学生有志

プロジェクト内容

本プロジェクトの目的は、山科区役所と連携して山科区における地域防災のあり方について考え、幅広い世代が参加しやすい新しい形の防災訓練を検討・提案することです。検討した結果、災害時を想定した訓練を行う前に、ゲームを使って地域住民の防災に対する意識を高めることや地域防災の重要性を伝えたいと思い、防災ワークショップを実施しました。また、ワークショップ後には参加者と防災についての意見交換も行いました。

プロジェクトの成果と学び

今回のプロジェクトでは、山科区役所の防災担当の方と山科区山階南学区の地域住民の方と一緒に、地域防災について考えるための防災ワークショップを2024年1月19日に京都市東部文化会館にて実施しました。ワークショップでは、最初に山科区に住む高齢者数等の山科区の特徴を具体的な数値を用いて参加者に説明しました。災害が起こった時に最初に力を発揮するのは被災現場にいる地域住民であるということ、地域住民の適切な防災行動によって被害を少なくすることができることなどを説明し、今回のワークショップの目的である「地域防災の重要性を理解してもらうこと」「地域防災に関してどのような取り組みができるのかを考えること」を伝えました。

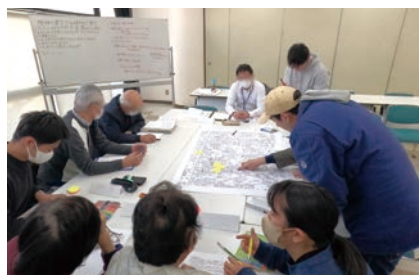
次に、クロスロードゲームという防災に関連したクイズを利用して、参加者がどれだけ防災に関する知識を持っているのか、山科区の地域の特徴をどこまで把握しているのかを全員で共有しました。クロスロードゲームとは、阪神・淡路大震災で災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された、カードゲーム形式の防災教材です。カードの問題には災害時に起こり得る状況で、どちらを選んでも何らかの犠牲を払わなければならないような「ジレンマ」が多数存在します。正しい答えを選ぶのではなく、他者がその答えを選んだ理由を聞くことで、様々な価値観や視点に出会うことができるため、今回のプロジェクトの目的にぴったりだと思い選びました。その後、参加者にクロスロードゲームで挙げられた災害時の状況を山階南学区の地図にマッピングをしてもらい、山科区の災害時における情報の管理方法や、山階南学区が被災した際の避難経路を確立するための情報をまとめました。

ワークショップには、山階南学区の自治会役員の方にも参加していただき、地域住民しか知らないことなども聞くことができました。また、参加者の方々から、「大学や大学生が高齢化の進む地域と積極的に関わってくれることがうれしい。」という意見もいただきました。

今後の展開

今回のプロジェクトを通して、地域の防災について考えるイベントを実施することで、地域住民の方々に防災に対する知識が身について実際の災害時に役立てることができるのではないかと感じました。また、山科区役所の方など防災訓練を運営する立場の方と意見交換をすることで、その地域に合った防災活動ができることを学びました。

漠然と防災訓練を行うのではなく、ワークショップも実施するなどして防災に関する知識も身につけられるような活動を広めたいと思いました。



■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

地域住民の交流を目的とした健康イベントの実施

報告：コミュニティ・バンク京信山科支店×学生有志

プロジェクト内容

本プロジェクトはコミュニティ・バンク京信山科支店（以下 京信山科支店）と連携し、山科地域の活性化を目的とした活動を展開するもので、地域連携活動に関心を持つ京都橘大学健康科学部作業療法学科の有志学生によって結成されました。

京信山科支店のコミュニティルームにて主に高齢の方を対象に、健康に関連する講話、ものづくり、体操を9月、11月、12月の計3回実施しました。講話は、京都府山科警察署の方による特殊詐欺への対処方法や救急救命サークルTURFによる救急救命講習会、京信山科支店インターンシップ生による「コピー製品における中国の実情」をテーマとしました。ものづくりでは、夏はマイうちわづくり、秋は松ぼっくり・どんぐり工作、冬は毛糸ツリーづくりを実施し、季節の移り変わりを実感していただけるようにしました。また体操では、頭の体操と身体の体操を行い、頭の体操ではクイズ、身体の体操ではコグニサイズ*やタオル体操を実施しました。体操を行う目的を医学的な知識と関連させて説明することで、より積極的に体操に参加していただけるよう工夫しました。

※コグニサイズ：国立長寿医療研究センターが開発した運動と認知課題（計算、しりとりなど）を組み合わせた、認知症予防を目的とした取り組みの総称を表した造語

プロジェクトの成果と学び

今回のプロジェクトでは、第1回23名、第2回18名、第3回9名の方にご参加いただきました。企画を通して参加者の交流を促すことができ、「このようなイベントがもっとあればいいのに」「季節を感じられる素敵なイベント」などうれしいお声をいただきました。

今回のプロジェクトを通して、地域のつながり作りのためには連携が大切であることを学びました。京信山科支店のコミュニティルームという、駅から近くアクセスの良い場所でイベントを実施することで、京信山科支店のお客様や大学まで来ることが難しい方にも参加いただくことができました。また、他の学生団体と協力することで自分たちだけでは実現できない企画を実施することができました。それぞれの視点からアイデアを出すことやお互いの強みを活かすことは、より良いイベントを実施することにおいて重要であると感じました。さらに、地域を対象としたイベントは参加者の方の生きがいになると知り、イベントの必要性・重要性を学ぶことができました。

今後の展開

参加者との交流を通して、今回のような活動を望む声がある一方で、そのような機会が少ないことがわかりました。参加者同士のつながりがイベントの中だけでなく地域活動への広がり発展するためには、継続的に活動できる機会が必要であると考えました。より多くの方に継続的に参加していただくために、早めの広報活動やイベント当日に集まってくださった方にアナウンスやアンケートで次回イベントの告知を行うと良いのではないかと考えました。また、余裕をもった時間配分をしておくこと、全体に進行を伝えるための方法を検討しておくこと、スタッフの立ち位置や役割を明確にしておくことでイベントを円滑に進行し、参加者の交流を促していきたいと考えました。



ものづくりを行っている様子



救急救命サークル TURF による
救急救命講習会の様子



救急救命サークル TURF の皆さんと
撮った集合写真



身体の体操を行っている様子

■ 学まちチャレンジ!プロジェクト

イベント参加から考える地域の活性化

報告：醍醐いきいき市民活動センター×学生有志

プロジェクト内容

このプロジェクトは、醍醐いきいき市民活動センターと連携して同センターが主催するイベントの賑わいづくり、醍醐地域の魅力に気付くきっかけ作りを目的として、醍醐地域における市民活動のあり方について実践的に学ぶ取り組みを行いました。今年度は、醍醐地域の市民活動団体の交流にどのような効果があるのかを感じ取ること、醍醐地域の住民に市民活動の楽しさを浸透させることを目標として、醍醐いきいき市民活動センターが主催する8月の「だいがゆめもり夏祭り」と12月の「醍醐いきいきフェスティバル」に参加しました。

プロジェクトの成果と学び

醍醐いきいき市民活動センターで開催された「だいがゆめもり夏祭り」では、子ども遊びブースを担当し、約250人が参加してくれました。遊びブースでは「宝探し」「輪投げ」「ダンボール迷路」「スーパーボールすくい」を企画しました。「宝探し」では、施設内を移動するスタッフを探してもらい、様々な場所を知ってもらえるよう工夫しました。全てのブースを回った子どもには手持ち花火をプレゼントし、夏祭り終盤で催される花火の時に楽しんでもらえるようにしました。

パセオ・ダイゴローで開催された「醍醐いきいきフェスティバル」では、子ども遊びブースとして「宝探しゲーム」を実施し、約40人が参加してくれました。「宝探しゲーム」は、木の棒を使い檻から宝石や化石を取り出すゲームです。「穴埋めクイズ de 醍醐の魅力発見!」と称したクロスワードパズルクイズに正解した人が「宝探しゲーム」に参加できるようにしました。醍醐の魅力や取り組みを伝えられるようにクイズの答えを醍醐地域に関連する言葉にしました。このクイズを通して醍醐地域の魅力を少しでも多くの方に伝えることができたと思います。

どちらのイベントでも、子どもたちからは「もう一回したい」「楽しすぎて疲れた」、保護者からは「子供が夢中になってくれている」「斬新な考え方で面白い」といった声をいただきました。コロナ禍が明けて子どもたちが楽しめるイベントが少しずつ増えてきましたが、子どもたちの楽しみの場の1つになれたのではないかと思います。

この経験を通して、地域コミュニティ拠点の意義やあり方や課題などを実感し、市民活動の可能性や課題について考えることができました。

今後の展開

今回のイベントを通して、醍醐地域住民の方が地域の魅力を知らない、気づいていないと感じました。また、醍醐いきいき市民活動センターでイベント報告会に参加させていただいた際に、まちづくり担当の方からは地域住民や若い方との関わりが少ないというお話を聞きました。これらのことから地域の魅力を伝えること、世代を超えた地域住民間の交流を活性化させることが今後の課題だと感じました。

イベント参加者は地域の方と交流できる場があることを喜んでくれていたので、これからは年齢に関係なく楽しめるイベントを企画し継続していくことで地域連携、地域活性化につなげていきたいと思います。

